



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第83号

令和8年1月



巻 頭 言

同窓会長 稲葉 宗 通 (4期生)



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

同窓会が昨年皆様のご支援とご協力により順調に活動ができましたこと心より御礼申し上げます。昨年の同窓会活動で例年と異なる行事としては、7月に「全国私立医科大学同窓会連絡会東部会」を主管したことが挙げられます。東日本の私立医科大学17校の同窓会役員の方々を川越にお招きして無事に開催することが出来ました。開催には丸木理事長先生、竹内学長先生はじめ大学役員の方々、そして多くの常任委員や会員の皆様にお手伝い頂きました。ご協力頂きました皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。後日出席してくださった他大学の先生から「良い会であった」とのお褒めのことばをいただきました。

昨年の卒業生教授等就任祝賀会は、本学保健医療学部の学部長に就任した茅野秀一先生と総合医療センター消化器・肝臓内科の教授に就任された川村祐介先生のお祝いを行うことができました。卒業生が、大学の要職や教授に就任し大学に貢献できること、或いは全国の大学や医療機関において医学・医療の進歩に貢献することは、同窓会として最も嬉しいことで誇りでもあり、これからも多くの卒業生のお祝いが出来ることを楽しみにしています。今年もすでに候補が上がり、皆様楽しみにして頂きたいと思います。

昨年も日本ばかりか世界的規模での大きな出来事が起こった年であり、人々に不安や不信感を植えつけた年でもありました。特に自然環境の破壊がもたらす影響は計り知れないものがあり、温暖化に伴う豪雨や洪水、乾燥、山火事といった人々の生活そのものを変えてしまう変化が世界各地で起こり、日本でも例外ではなく、岩手県の大船渡市の大規模山林火災をはじめとする各地での山火事、今夏の平均気温が1898年以降で最も高く、大学近郊の鳩山町は常に高温上位に揭がっていました。熊の被害の多発もその一つでしょう。地震についてもトカラ列島近海の地震が頻回に起こり、各地で頻回に観測されています。これから災害に対しますます危機管理が必要となるものと思われま

す。一方、昨年はスポーツ界をはじめとして日本人の活躍が目立った年でもありました。大谷翔平選手、山本由伸選手らの活躍は記憶に新しい所です。サッカー界では日本が最速でワールドカップ出場を決め、女子ゴルフ界では山下美夢有選手が全英女子オープン優勝し、ほか駅伝、スケート、卓球、陸上競技等々多くの種類での日本選手の活躍は枚挙の糸間がありません。また学術分野に於いてはノーベル生理学・医学賞に坂口志文氏、ノーベル化学賞に北川進氏の2人の日本人がノーベル賞を受賞しました。今年も冬季オリンピック、ワールドクラシックベースボール、サッカーワールドカップなど日本人の活躍が期待されます。

また昨年は、1人の考えが世界に多大な影響を及ぼした年でもありました。昨年1月に就任した米国のトランプ大統領の言動は、就任早々世界に影響を及ぼし、温暖化対策に逆行する発言や経済への影響、先のない紛争や戦争への介入など、世界を混迷に導いているようで、ロシアや中国、北朝鮮などの独裁者国家と変わらない様相を呈し一層世界全体に暗い影を投げかけました。

日本に於いては、強いリーダーシップを持った初の女性総理大臣が誕生しました。これまでの日中関係に楔をうち、中国の抵抗にあっています。今後どのように変化していくのか見守りが必要になりますが、混迷の世界情勢の中で日本が世界平和、環境改善の先頭に立つてほしいと思います。

今年の干支は、「丙午（ひのえうま）」。

AIによれば60年に一度巡ってきて「陽の火」の性質を持つとされ、情熱や変化を象徴しエネルギーに満ちた年とされています。新しいことへの挑戦や大きな飛躍のチャンスが期待でき積極的な行動が鍵になる年と言われています。私達は干支に肖りより積極的に精力的に会員の輪を広げ、会員同士の融和をはかり、さらに大学の発展に寄与していきたいと考えます。

会員の皆様には引き続き倍旧のご厚情を賜りたく切にお願い申し上げます。

皆様にとってこの1年が素晴らしい年でありますようご健勝とご活躍を祈念いたします。